

# 夢のかけはし



伝統を守りながら  
新作落語に挑み続ける

王子町出身。本名は吉田 誠よした まこと。今年5月に念願の「真打」昇進を果たす。得意とする新作落語は、中学や高校時代に故郷の鹿屋で過ごした経験を題材にしたものが多い。代表作は「にきび」、「俺ほめ」等。(39歳)

高校卒業後、大学進学のため上京し、なんとなく面白そうなどころだと思い、落語研究会に入ったのが落語との出会いでした。その頃はまだこの世界に入るとは夢にも思っていませんでした。

人生の転機は大学卒業後、時間があり久しぶりに寄席よせを聞きに行ったときの瀧川鯉昇たきかわりしやう師匠との出会い。それがまた面白く、まさに雷に打たれる感動を覚え、気が付けば体が勝手に楽屋へ向かっていました。入門のお願いをしたところ、後日正式に会ってくれました。

「この世界は食えない大変な世界だ。覚悟はあるか」と聞かれましたが思いは変わらず、25歳のときに入門を果たしました。

入門後は落語、着物の着方やたみ方、鳴り物などの稽古を始め、東京都内に5か所ある寄席が毎日円滑に行われるよう、師匠や兄弟子の雑用係である前座生活を4年過ごしました。寄席以外の時間も忙しく、主に昼から師匠のところはなで噺の稽古、それ以外でも自分で落語の勉強をするなど四六時中落語に関わっていました。

29歳で二ツ目に昇進。二ツ目になると紋付もんつき、羽織はおり、袴はかまを着けることもできるようになり自分の時間を作ることも増え、そこから10年と長い間修行を積みました。

そして、今年の5月1日に念願の真打へ昇進。しかし世間はコロナ真打ただ中。真打になったこと

## 落語家「真打」

# たきがわ こいはち 瀧川 鯉八 さん

を記念して行う披露興行は、落語界で前例のない延期に見舞われましたが、10月から無事開催され、全公演が満員御礼で終わることができました。寄席ではトリ（最後の出番）を任せられ、喜びの中に責任も感じ、真打になったことを改めて実感させられました。

伝統を守りながら新しいことをしたいという思いで始めた「新作落語」も、現在ではお客様に浸透して評価を受けていると感じています。今後は自分を活かせる鹿児島を題材にした落語を増やしていきたいです。また家族や師匠を始め、これまで関わってきた人への恩返しのため、一人でも多くの人を呼べる落語家になりたいです。



【右】真打昇進披露興行の様子。入門から15年の厳しい修行を積み、ようやく一人前となり「師匠」と呼ばれるようになる。  
【左】向かって左が運命の人、瀧川鯉昇師匠。

▶ 瀧川鯉八  
公式ホームページ

